

横浜市指定名勝

旧川合玉堂別邸 (二松庵)庭園



横浜市教育委員会事務局 生涯学習文化財課
金沢区役所 区政推進課



© ITOON/GN

旧川合玉堂別邸(二松庵)庭園 案内マップ

この場所について

川合玉堂は、明治から昭和にかけて活躍した日本画家です。富岡の旧家である斎田家の娘が玉堂邸に行儀見習に出たことを縁とし、この地を訪れた玉堂はその景観を気に入り、別邸を建て、夏冬に画室としました。

主屋跡

かつてはこの場所に数寄屋建築の建物がありました。玉堂が画室として使用しており、書斎から見える景色を絵にしていました。

※平成25年10月16日に焼失しました。



表門

腕木門で茅葺き屋根の門です。表門から右脇にかけては建仁寺垣が巡らされています。



紅葉

冬には紅葉が散って、紅葉色のじゅうたんになります。園内には他にも見どころがあります。

四阿 (あずまや) 跡・老松跡

かつては、この場所から海が見えました。玉堂は、海を展望する四阿に客を誘って「庭師が大きな池を作ってしまった」と冗談を言ったそうです。また、ここに2本の松があったことから、この別邸が「二松庵」と呼ばれるようになりました。



白梅

玉堂はこの場所を避暑、避寒の地として滞在し、付近を散策して土地の人と語り、スケッチで多くの画題を得て幾つかの名画を残しました。（「紅白梅」等）



全体

「二松庵」の庭は、雑木を好み、雑木の中に建物がある風情を求めた玉堂の意向によって自然の趣を取り入れ、野趣豊かな庭園となっています。回遊式の庭園で南側低湿地の下段と、山を切り開いた上段の二段となっています。



庭園内で見られる植物

春



エビネ

山地の林下に生ずるラン科の多年草。根茎は節が多く、エビの背に似ます。春になると10花あまりを総状花序に開きます。



シュンラン

山地の乾燥した斜面に多く、早春に花茎の先端に1個淡黄緑色で紅紫色の斑のある花を開きます。

秋



イトススキ

ススキの一変種で葉・茎ともに細く、穂も細小。糸のように細いことからこの名があります。秋になると白銀色の花穂をつけます。



ヒガンバナ

秋の彼岸頃に赤色の花を開き、花被は6片で外側に反り、雌しべ雄しべは長く突出。冬の初め頃から線状の葉を出し、翌年の春に枯れます。

夏



ネジバナ

原野や芝生などに自生。夏は淡紅ないし紅色の小さな花を多数穂状につけ、花序がゆるい螺旋状に巻くのでこの名があります。



ツククサ

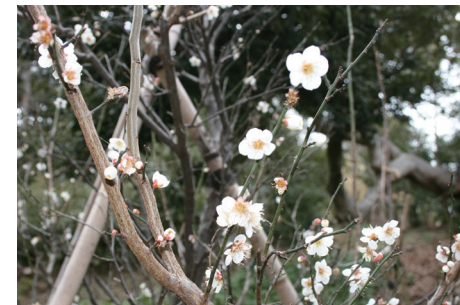
ツククサ科の一年草。畑地や路傍などに生息し、全体に軟質。葉柄は鞘状で、夏から初秋に藍色で左右相称の花をつけます。

冬



紅梅

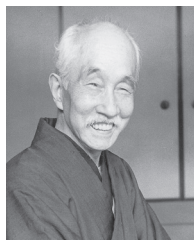
早春に葉に先立って開く花は、五弁で香気が高く、花の色は、白、紅、薄紅、一重、八重咲など多様です。庭園内に咲く紅梅、白梅を情緒豊かに金屏風に描き、制作された「紅白梅」は名画と絶賛されました。川合玉堂が好んだ古木の紅梅は枯れてしまいましたが、銘木として残されて2代目が継いでいます。



白梅

川合玉堂（1873～1957）

本名芳三郎は、明治6年11月愛知県葉栗郡外割田村（現在の一宮市）に生まれた。明治20年、京都の雪舟以来の水墨画と土佐派とを折衷した望月派4代目望月玉泉に師事し、手本や粉本の模写、花鳥の写生に打ち込んだ。17歳の時、玉堂を称し、第3回内国勸業博覧会に出品し入選した。のちに、幸野樸嶺に師事し、画塾・大成義会に入会した。この塾の先輩に菊池芳文・竹内棲鳳がいた。ここで丸山四条派の画法を教え込まれた。この時期の作品として八曲一隻の水墨画「老松図」がある。明治29年、上京して橋本雅邦の門下となり狩野派の画法の習得に励んだ。



昭和23年 75歳
(玉堂美術館提供)

明治31年、岡倉天心、横山大観らが日本美術院を創立した際、雅邦に従いこれに加わる。明治40年、東京勸業博覧会に瀟洒（しょうしゃ）な四条派の画法と狩野派の線とが渾然と溶け合って湿潤な日本風土と生活感が醸し出されている「二日月」を出品。この作品により自己の画業の方向性を具現した。またこの年、文部省美術展覧会（文展）審査員に任命される。大正4年、東京美術学校日本画教授となる（昭和13年まで）。大正5年、第10回文展に大正時代の日本画を代表する六曲二双の彩色画「行く春」（国重要文化財）を出品。大正6年、帝室技芸員となる。この頃、富岡を訪れた玉堂はその景観を気に入り、「二松庵」を建築し夏冬の画室とした。二松庵に訪れていたのは、昭和11年頃までと伝えられている。昭和15年、文化勲章受賞。昭和19年、現在の青梅市御岳に疎開をし、御岳での画生活に入った。昭和32年6月、御岳にて逝去した。

●二松庵を訪れ、画室から見える風景や周辺を散歩しながらスケッチした人物や景色が、作品の中に描かれている作品

「長閑」 大正6年の作 「紅白梅」 大正8年の作 「から臼」 昭和5年の作
「土橋」 昭和7年の作 「紀元節」 昭和19年の作 「出船」 昭和32年の作



「奔流」大正10年（1921年）頃製作 絹本水墨 六曲一双 横浜美術館蔵

横浜市指定名勝（指定日 平成28年11月4日）

旧川合玉堂別邸（二松庵）庭園は、日本画家川合玉堂が大正6年(1917年)10月に建てた別荘（二松庵）につくられた庭園で、地元富岡の庭師、植周二代目・大胡隆治を起用して作庭されました。

富岡の丘陵地の南東向き斜面に位置し、斜面上部と中部及び下部のそれぞれの部分に平坦地があり、変化に富んだ地形を呈しています。

敷地中央の中部平坦地を利用して茅葺の二松庵主屋（平成25年焼失）が建てられており、南下部の比較的狭い平坦地に茅葺の表門と旧使用人居宅があります。

●**前庭**：表門をくぐると左の崖下には湧水を利用した小池が配置され、この池を基点に小さな流れが形成され、土橋、丸太橋が設置されています。右に主屋跡への上りの園路が樹間の中を心地よい曲線で配置されており、園路の裾には木灯籠、登りきったところには金灯籠が設置され、園路の左右に広がる豊かな斜面の樹林と共に、前庭部分を構成しています。

●**主庭**：園路を登ると平場に出て、その奥が主屋跡となります。主屋南側のかつて茶室・画室が面していた平地を経て、東側には平坦な主庭が配置されています。この主庭越しに玉堂画伯が画室から海を眺めていたといわれるところです。主庭から谷筋に沿って南に下ると、東の先の平地には玉堂画伯が画題のモデルにしたともいわれる紅白のウメの古株が植えられています。

●**広場**：主庭から木橋を渡ると東上方の広場に出ます。この広場にはかつては海を一望する四阿が建てられており、現在も礎石が残存しています。

庭園全体は、絵画やスケッチに多くの雑木林の風景や山野草を描くなど、玉堂画伯の好んだ風景が再現されています。本庭園は、かつての富岡という「地域景観」や「別荘文化」の有り様が窺い知れる貴重な空間です。

現在、大胡隆治の孫にあたる、植周四代目（植周造園）・大胡周一郎ほか、地元有志によって構成されたNPO法人「旧川合玉堂別邸及び園庭緑地運営委員会」により、川合玉堂の愛した庭園の雰囲気や十分に考慮した維持管理や活用事業が展開されており地域文化啓発の活動拠点としても十分に保護されるべき存在となっています。

以上により、大正中期から昭和初期にかけての富岡という地域に展開された近代別荘文化と、先駆的な雑木の庭園の状況を窺い知ることが出来る数少ない空間として高く評価でき、名勝に値するといえます。

ボランティア活動をはじめてみませんか？

横浜市指定名勝第1号の旧川合玉堂別邸（二松庵）庭園で、一緒に活動して下さるボランティアを募集します。一緒に庭園を良いものにしていきましょう！

対象となる方

旧川合玉堂別邸（二松庵）庭園で、ボランティア活動に参加したいとお考えの方。

申し込み方法

ボランティアに参加を希望される方は、開園日に旧川合玉堂別邸にお越しいただき、受付の係員にお申し出ください。

活動している ボランティア はこんな団体

名称：NPO法人 旧川合玉堂別邸及び園庭緑地運営委員会
設立：平成17年12月
毎月1回第1土曜日に一般公開及びイベントを実施しています。
人数：約45名

ボランティア（旧川合玉堂別邸及び園庭緑地運営委員）の活動について

■企画広報班

<活動内容>

- 1 開園日に実施するイベントの企画など
- 2 チラシの作成など



■運営班

<活動内容>

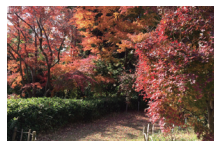
- 1 会議を行う管理棟の維持管理など
- 2 開園日の受付・ガイドなど



■維持班

<活動内容>

- 庭園の整備・維持管理など
- ・来園者が安全に散策でき、魅力ある庭園にする
 - ・多くの市民の憩いの場所となるよう整備する



ご案内

■横浜市金沢区富岡東5-19-22
(京急富岡駅徒歩2分)

■毎月第1土曜日開園

■開園時間：午前10時～午後4時（4月～9月）
午前10時～午後3時（10月～3月）

金沢区役所区政推進課 TEL 045-788-7729

